



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 22, 83-85
Issue Date	1996-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26025
Type	other
File Information	22_P83-85.pdf



研 究 室 報

講 義 題 目 (1995年度)

独 語 学 概 論		植木迪子・清水 誠
独文学史概説		石 原 次 郎
独 語 学	Landeskunde	植 木 迪 子
独 語 学	ドイツ語と北欧語	清 水 誠
独 語 学	生成文法理論から見たドイツ語の構造	保 坂 泰 人
独 語 学	Fakten über Deutschland	Franz Schneider
独 語 学	Von Sprachstrukturen zur Kommunikation	Franz Schneider
独 文 学	Spielerische Rhetorik	Michael Haas
独 文 学	Schreiben und Textproduktion (2)	Sigrid Holzer
独 文 学	テキスト読解の基礎	石 原 次 郎
独 文 学	作家の文学論	山 田 貞 三
独 文 学	R. ムーヅル研究	赤 司 英一郎
独 語 学 演 習	独語学の基本	植 木 迪 子
独 語 学 演 習	Textgrammatik	植 木 迪 子
独 語 学 演 習	西ゲルマン語演習 (2)	清 水 誠
独 語 学 演 習	オランダ語学 (2)	清 水 誠
独 語 学 演 習	ドイツ語史の諸相	清 水 誠
独 語 学 演 習	ドイツ語歴史統語論	清 水 誠
独 語 学 演 習	Grundprobleme der Linguistik	Franz Schneider
独 文 学 演 習	20世紀ドイツの芸術批評	西 村 龍 一
独 文 学 演 習	現代文学の諸相	山 田 貞 三
独 文 学 演 習	ARS POETICA	山 田 貞 三
独 文 学 演 習	文学の情報特性	石 原 次 郎
独 文 学 演 習	文学の社会理論	石 原 次 郎

研 究 室 行 事 記 録

◎1995年2月18日に北海道大学文学部301号室において1994年度卒業論文・修士論文発表会が開かれた。

◎1995年には、文学部では下記の研究会がもたれた。

・3月13日 荻原 達夫：Zur *es gibt*-Konstruktion

・6月14日 荻原 達夫：Zur (In)akzeptabilität des Satzes : *?/??/ *Was glaubst du, daß Peter gekauft hat?*

・10月7日 臼渕 幸子：Sie sind…/du bist…という表現について

〈留学関係〉

◎1995年8月に田野中純子氏がミュンヘン大学から留学を終え帰国した。

◎1995年8月に林 馨子氏がミュンヘン大学へ留学のため出発した。

☆1995年6月10日に年報の総会が行われ、会長選出、幹事選出、入会報告等が行われた。

1994 年 度 論 文 題 目

卒業論文

小笠原直子：カロッサは戦争を讃えたのか？— 詩 “Geheimnisse” —

津田千佳司：文学テキストと受容者の関係 — ロベルト・ムージル『三人の女』を例に

三谷 愛：Patrick Süskind — “Die Geschichte von Herrn Sommer” と “Die Taube” について

宮本 哲也：〈不条理〉の妥当性 — ヴォルフガング・ヒルデスハイマー『遅れ』について —

森 真一：“Dichterliebe” にみられる韻律の研究

修士論文

白渕 幸子：Zur Extraktion aus daß-Sätzen

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
 - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。

本会に賛助会員をおく。

会 員 名 簿

※青 柳 謙 二	石 川 克 知	石 橋 道 大	石 原 次 郎
伊 藤 祐紀子	岩 井 洋	岩 田 聡	◎植 木 迪 子
○臼 渕 幸 子	梅 津 真	江 口 豊	岡 田 麻 子
小 川 了	○荻 原 達 夫	小 澤 幸 夫	加 藤 寛 蔵
川 島 淳 夫	川 東 雅 樹	岸 川 良 蔵	佐 藤 修 子
佐 藤 俊 一	塩 谷 幸 子	※塩 谷 饒	清 水 誠
神 久 聡	鈴 木 将 史	高 橋 修	高 橋 吉 文
田 中 智 美	田 中 慎	田 中 剛	田野中 純 子
対 馬 晃	寺 田 達 男	中 川 勝 昭	中 称 勝 美
名 執 基 樹	西 川 智 之	林 馨 子	藤 本 純 子
前 原 真 吾	三 浦 國 泰	最 上 英 明	森 田 一 平
山 田 恵 子	山 田 貞 三	山 田 善 久	

◎は会長 ○は幹事 ※は賛助会員

独 語 独 文 学 科 研 究 年 報 第 22 号

1996 年 1 月発行

発 行 者 北海道大学ドイツ語学・文学研究会
 編集委員 臼 渕 幸 子 荻 原 達 夫
 連 絡 先 北海道大学文学部独語独文学研究室内
 060 札幌市北区北 10 条西 7 丁目
 印 刷 所 北 大 印 刷
